

## 2026年度事業計画

<目次>

事業計画一覧	P 1
大阪工業大学	P 2
摂南大学	P 5
広島国際大学	P 7
常翔学園中学校・高等学校	P 9
常翔啓光学園中学校・高等学校	P11

### 事業計画一覧

区分・事業計画名称 [申請部署]	件数 (件)
<b>大阪工業大学</b>	
1. 教育力・研究力の強化 [企画課、研究支援社会連携推進課、教務課、情報科学部事務室]	2
2. ブランド力の向上 [企画課、研究支援社会連携推進課、教務課、学生課、入試課、工学部事務室、ロボティクス&デザイン工学部事務室、情報科学部事務室]	
<b>摂南大学</b>	
1. 学生生活環境整備事業 [会計課、学生課]	2
2. 現代社会学研究科の設置 [企画課、現代社会学部事務室]	
<b>広島国際大学</b>	
1. 2027年度改革の実現に向けた各施策の展開 [学長室、教育・学生支援機構、入試センター]	1
<b>常翔学園中学校・高等学校</b>	
1. 中学・高校の探究授業の拡充 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	2
2. グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上と 高校「グローバル探究コース」における教材開発の継続 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	
<b>常翔啓光学園中学校・高等学校</b>	
1. 教育環境整備事業 [高校教頭、中学教頭、事務室]	2
2. 生徒の学びの個別最適化による能力向上と教員のリスクリグ・リカレント教育 [高校教頭、中学教頭、進路指導部、教育探求部]	
<b>合 計</b>	<b>9</b>

No.1 教育力・研究力の強化

〔申請部署：企画課、研究支援社会連携推進課、教務課、情報科学部事務局〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

在学生および受験生(保護者を含む)、高等学校や教育関係者、地域・企業などのあらゆる対象から高等教育機関として魅力的かつ求められる大学としてあり続けるために、「就職力」の礎となる「教育力」・「研究力」の強化を図る。

○教育活動の推進

学生個々に対する自律学修をサポートする体制の維持・向上とともに、デジタル技術を活用した教育の可能性を追求する。また、学園設置大学との連携強化による教育サービスの拡充を図る。

○研究活動の推進

定員増による学費収入増加が見込めない情勢下において、大学の研究力強化のためには、外部資金の獲得、産官学連携の促進および大学発スタートアップの創出による「研究市場の開拓」が不可欠となる。時代の趨勢に合わせて研究基盤確立のための施策を展開する。

≪実施計画≫

①内部質保証の実質化の促進

自己評価・IR委員会を軸にIR年報を活用した内部質保証の取り組みを実施する。

2026年4月～7月 IR年報の作成

2026年7月～3月 2026年度内部質保証/IR活動

2027年3月 自己評価・IR委員会において各学部の活動について確認

また、アンケートや対話によって学生の意見・要望をくみ上げるとともに学外関係者に意見を聞き、その分析結果を教育研究活動や大学運営の改善・向上に反映する。

②デジタル技術を活用した教育の質の向上

(通年)オンライン授業(オンデマンド)を推進していくための環境を整備する。

③リベラルアーツ科目群の整備

(通年)学部間の「文系教養」学修リソースの不均衡を是正しつつ、本学が「教育の理念」で掲げる人材像の育成をより高度なレベルで大学全体において実現するための教育課程・方法論・体制等を整備する。

(通年)工学系学問領域を幅広く有する本学の特長を活かしたリベラルアーツ科目群の構築に向けた検討を行う。

④数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)の申請および実施

情報科学部で同教育プログラムを展開し、同学部の学生が自らの専門分野で数理・データサイエンス・AIを応用できる能力を育成する。

2026年4月～5月中旬 文部科学省へ申請

2026年8月～9月 認定および選定大学等決定

⑤学園設置大学間での連携強化

(通年)大阪工業大学・摂南大学相互の連携により教育・研究内容や教育・研究分野の拡充を図るための検討を実施する。

⑥他大学との連携

関西医科大学、大阪教育大学と連携し教育・研究内容の充実を図る協議を実施する。

⑦イノベーションデザイン教育研究センター(以下、CIDRe)を基軸とした実践教育プログラムの拡充

(通年)イノベーション人材育成のプログラムとして新規・継続の取り組み

・インターンシップの支援プログラムとして、企業連携による事前学習を実施する。

・企業との連携による課題解決型学習プログラムを実施する。

・ピッチコンテスト等、学生発表の場を設け、学生のプレゼン能力を強化する。

⑧研究活動の促進にかかる取り組みの推進

(通年)研究資金獲得強化の取り組み実施

・地域オープンイノベーション拠点選抜制度に選ばれたDXフィールドの活用および既存研究センターの強化、新研究センター設立により大型資金獲得を目指す。

・URAおよび外部資金獲得後(ポスト・アワード)の人材強化を図る。

・科研費を除く競争的資金、間接経費の配分を再考する。

・研究設備スペースの適正化を図る。

・研究プロジェクト事業のブラッシュアップ(若手研究者専用助成金の充実)を行う。

(通年)産学連携促進

・城北倶楽部、大阪商工会議所等の連携関係にある団体を活用する。

・企業からの寄付金の拡大等組織対組織での連携を強化する。

(通年)スタートアップ育成支援

・教育系職員、学生の起業マインド醸成の仕掛けを構築する。

・知的財産学部との協力による知財戦略を策定する。

・起業支援人材の充実を図る。

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

- ①内部質保証の実質化の促進
  - ・刷新されたIR年報に基づき、各学部が具体的な自己評価を行えている。
  - ・昨年度(2024)の自己評価・IR委員会がとりまとめた改善課題に対し、具体的な取り組みを設定している。
  - ・ディプロマ・サブリメント・システムに基づくDP達成度の達成状況。
  - ・授業外学修時間の増加状況。
  - ・アンケートや対話から得た学生の意見や学外関係者の意見とその分析結果を教育活動の改善に繋げている。
- ②デジタル技術を活用した教育の質の向上
  - オンライン・オンデマンドを活用したキャンパス間の接続強化ができています。
- ③リベラルアーツ科目群の整備
  - 教育課程や授業内容の具体化に向けた検討を進めている。
- ④数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)の実施
  - 教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定している。
- ⑤学園設置大学間での連携強化
  - 連携していく概要(具体的な内容やスケジュール等)を設定できている。
- ⑥他大学との連携
  - 連携していく内容やスケジュールを設定できている。
- ⑦CIDReを基軸とした実践教育プログラムの拡充
  - ・リスキリング教育科目を実施している。
  - ・企業連携によるインターンシップの事前学習プログラムを実施している。
  - ・企業との連携による課題解決型学修を実施している。
- ⑧研究活動の促進にかかる取り組みの推進
  - ・外部資金獲得額の増加。
  - ・若手向け助成金制度等の設立。
  - ・大学発ベンチャー企業の設立数 など。

No.2 ブランド力の向上

〔申請部署：企画課、研究支援社会連携推進課、教務課、学生課、入試課、工学部事務室、ロボティクス&デザイン工学部事務室、情報科学部事務室〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

急激に進む少子化による志願者激減への対応や、競合校による学生確保へ向けたさまざまな取り組みに打ち勝つ施策の実施が必要である。

学園創立103年目を迎えて、新たな100年に向けてスタートしたブランド力向上にかかる取り組みの具現化と情報発信を行う。

《実施計画》

- ① バイオものづくりセンター等を通じた研究力の発信  
充実した研究施設・設備を備えた新設のバイオものづくりセンターを中心とした研究力の発信を強化する。
- ② NVIDIAとの連携における取り組みの実施・発信  
オムニバースの導入による研究力向上に繋げる活動やNVIDIAとの連携による新規教育の展開と情報発信を行う。
- ③ DXフィールドおよびeスポーツ施設の情報発信  
・ 枚方キャンパスにおけるDXフィールド(経産省令和7年度第7回地域オープンイノベーション拠点に選抜)を活用した教育研究活動と梅田キャンパスにおけるeスポーツ施設を活用した課外活動などを通じた発信強化を行う。  
・ 企業との連携協定と共同研究の実現により、研究活動の推進を図る。
- ④ プロジェクト活動の充実および情報発信の強化  
プロジェクト活動の充実および情報発信の強化を図る。
- ⑤ 高大接続事業による高等学校との関係強化を図る施策の拡充  
AO入試(総合型選抜)において安定的に入学者を確保する体制を確立する。
- ⑥ 理工教育支援事業の実施  
1) 高校生との接触機会を増やす教育プログラムを提供することで主に学力上位高校からの認知および本学へ興味・関心を示す高校生の拡大に繋げる。  
2) これまでの取り組みを継承しつつ、本学独自プログラムを昇華させた理工系人材育成支援プログラムの強化と展開を図る。
- ⑦ 認知拡大の継続と本学の特長を発信する取り組みの強化  
校名認知から特長認知を向上する施策として、メディアを活用した取り組みを実施し、本学の“成長できる大学”としての教育・研究内容を発信する。

【具体的指標・効果(成果検証)】

- ① バイオものづくりセンターを通じた研究力の発信  
バイオものづくりセンターを中心とした研究活動を発信している。
- ② NVIDIAとの連携における取り組みの実施・発信  
教育・研究力向上に繋がる新規取り組みを実施・情報発信している。
- ③ DXフィールドおよびeスポーツ施設の情報発信  
・ DXフィールドにおける教育研究活動と梅田キャンパスeスポーツ施設における取り組みを実施し、SNSなどの発信やプレスリリースに繋げている。  
・ 企業連携による新規研究活動を開始している。
- ④ プロジェクト活動の充実および情報発信の強化  
プロジェクト活動の充実および情報発信の強化を図っている。
- ⑤ 高大接続事業による高等学校との関係強化を図る施策の拡充  
連携強化校を対象とした総合型選抜入試を継続して実施し、入学者を確保している。
- ⑥ 理工教育支援事業の実施  
1) 参加者数が昨年度並み、または増加している。  
2) 外部機関次世代人材育成事業への展開を見据えた関係機関との調整と検討を図る。
- ⑦ 認知拡大の継続と本学の特長を発信する取り組みの強化  
・ 本学の特長を発信する動画等の制作および発信  
・ 研究活動の継続的なリリース

**【必要性・目的、実施計画等】**

《必要性・目的》

本学の中長期目標・計画「2 教育・研究」においては、「主体的・対話的・深い学び」を実現するための学びの場の創出が掲げられており、この教育目標を達成するためには、講義室等の整備にとどまらず、多様な学生を受け入れる基盤となる学生生活環境全体の質的向上が不可欠である。

しかし現状では、修学支援、バリアフリー対応の遅れやトイレ等施設の経年劣化の課題もあり学生生活環境の整備も十分とは言えない。

そこで本事業では、支援機器の整備を通じた物理的な障壁の解消と老朽化した生活インフラの刷新を進め、学生が生き生きと過ごせる学生生活環境の整備を目指す。

《実施計画》

(1)バリアフリー対応の推進

①学生支援機器整備

2026年度中に寝屋川と枚方の両キャンパスに以下のとおり整備する予定である。

ただし、購入機器・台数は、必要性等を精査して選定するため、変更する場合がある。

イーバックチェア： 4台

車いす用学習机： 32台

車いす用取り付けテーブル： 12台

ロジャー製品(送信機+受信機)： 4台

ロジャー送信機(複数音声対応)： 4台

ロジャー中継器： 4台

ヘッドフォン(イヤーマフ)： 4台

携帯型拡大読書器： 4台

拡大鏡(ルーペ)： 4台

②総合体育館屋外階段への階段昇降機設置工事

階段昇降機設置工事： 2027年3月竣工予定

(2)トイレ改修工事

トイレ改修にあたっては、学生の意見も取り入れた施設となるよう、理工学部住環境デザイン学科の教員および学生の協力を得て改修案を策定する。学生には実地学習のよい機会にもなる。改修計画策定の様子などを広報活動にも利用する予定である。

寝屋川12号館3~7階男女トイレ改修： 2027年3月竣工予定

枚方5号館1~5階トイレ改修工事： 2027年3月竣工予定

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

(1)バリアフリー対応の推進

①学生支援機器整備

イーバックチェア： 4台

車いす用学習机： 32台

車いす用取り付けテーブル： 12台

ロジャー製品(送信機+受信機)： 4台

ロジャー送信機(複数音声対応)： 4台

ロジャー中継器： 4台

ヘッドフォン(イヤーマフ)： 4台

携帯型拡大読書器： 4台

拡大鏡(ルーペ)： 4台

②総合体育館屋外階段への階段昇降機設置工事

階段昇降機設置工事： 2027年3月竣工予定

(2)トイレ改修工事

寝屋川12号館3~7階男女トイレ改修： 2027年3月竣工予定

枚方5号館1~5階トイレ改修工事： 2027年3月竣工予定

**【必要性・目的、実施計画等】**

≪必要性・目的≫

現代日本社会は、人口減少や超高齢化、地域コミュニティの機能低下など、深刻かつ複合的な課題に直面している。こうした時代において、課題解決に向けた深い思考力と、それを具現化する実践力を兼ね備えた高度専門職業人の養成が急務である。この社会的要請に応えるため、現代社会学部を基礎とした現代社会学研究科(修士課程)を設置する。

本研究科は学部教育で培った「フィールド型アクティブ・ラーニング(FAL)」を大学院レベルへ昇華させた「専門FAL型教育」を特色とする。多様な専門分野と現場(フィールド)を持つ教員資源を活かし、理論に裏付けられた高度な実践能力を修得させる。また、学生個々のキャリア展望(高度専門職、地域リーダー、博士課程進学等)に合わせて科目を設計できる「セルフメイド・コアカリキュラム」を導入することで、他大学生や社会人のリカレント教育にも対応でき、多様な学生の受け入れが期待できる。これにより、高度な協働実践が促進され、本学の教育理念の具現化にもつながる。こうした特色に基づく教育・研究を通じて社会との接続を明確にした研究科を設置することで、時代と地域が必要とする「現場(フィールド)に強い専門家」の育成を目指す。

≪実施計画≫

- ・大学院現代社会学研究科(修士課程)設置認可申請
- ・大学院現代社会学研究科(修士課程)設置にかかる教育研究環境の整備

**【具体的指標・効果(成果検証)】**

- ・大学院現代社会学研究科(修士課程)の設置について、2026年8月末に文部科学省から認可を得る。
- ・大学院現代社会学研究科(修士課程)設置にかかる教育環境の整備について、2027年3月までに完了する。

No.1 2027年度改革の実現に向けた各施策の展開

[申請部署:学長室、教育・学生支援機構、入試センター]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

2027年度から再び18歳人口が減少期に入り、これまで以上に多様な学生が入学してくることが予想されるなど、大学を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、選ばれる大学として持続可能な未来を目指すため、「教育・学生支援」「組織」「財務」を有機的に連携した改革を推進し、教職員がチャレンジできる体制を確立する。そのために、2026年度を改革実現に向けた本格的な準備の期間と位置付けて、多角的な施策を展開し、将来にわたり持続可能な大学であり続けるための基盤を盤石にする。

《実施計画》

【教育・学生支援改革】

- (1) 多様な学生に応じた教育・学生支援の充実にに向けた準備と実施体制の整備
  - ・新カリキュラム運用開始に向けた実施体制の整備
  - ・再構築した多職種連携教育の導入準備と実施体制の整備
  - ・多様な入学者に対応した入学前提供プログラムの再編と運用開始
  - ・学生の内的変化に応じた進路支援の体制整備
  - ・学生間で繋がり学び合う仕組みの構築と教職協働による学生支援の充実
  - ・正課外活動を通して学生が成長できるサポート体制の確立
  - ・強化指定団体の拡充とさらなる支援

【組織改革】

- (1) 入学定員・収容定員の見直しによる規模の最適化と安定的な大学経営のための学生募集活動の実施
  - ・入学定員・収容定員見直しに向けた各種申請手続きと体制整備の推進
  - ・多様な世代への本学認知度の向上のための様々なメディアの活用
  - ・接触者・受験者の増加のための広報施策を展開
  - ・国試合格率、学生満足度、就職率や学科の特色等を用いた広報活動の強化
  - ・多様な受験生に対応する総合型選抜と特待生制度の拡充
  - ・入学者状況を把握するためのIR分析の活用とフィードバックの実施
  - ・現状の高大連携事業の検証と効果的な施策への注力
- (2) 組織的な取り組みによる財務施策の推進
  - ・安定的な大学運営の実現に向けた環境の整備
  - ・学生募集及び学校運営に必要な施設・設備の更新に向けた予算の効果的な運用
- (3) 教職員の役割に基づく能力向上とやりがいを持って働ける環境の実現
  - ・教員一人ひとりがこれまで以上に力を発揮できる人事計画の策定
  - ・教職員のモチベーション向上施策の策定

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

**【教育・学生支援改革】**

(1) 多様な学生に応じた教育・学生支援の充実に向けた準備と実施体制の整備

- ・基盤教育科目と専門教育科目の連携を軸に、低年次からの実践的学修およびキャリア教育を意識した授業構成と運用体制を整備している。
- ・多職種連携教育のカリキュラム内容と実施プロセスの確立、およびファシリテーター育成体制を整備している。
- ・入学後の主体的学修を促す入学前提供プログラムの再編と運用体制を整備している。
- ・進路の再設定や学修継続を可能とする転学部・転学科制度を整備している。
- ・学生間、教職員と学生がつながり合う体制を整備している。
- ・学生が主体的に行うイベント・プロジェクト、クラブ活動の包括的な体制を整備している。
- ・強化指定団体所属学生数の増加に伴う、活動・学生生活の支援体制を整備している。

**【組織改革】**

(1) 入学定員・収容定員の見直しによる規模の最適化と安定的な大学経営のための学生募集活動の実施

- ・入学定員・収容定員見直しに向けた各種申請手続きを完遂している。
- ・2027年度学部入学定員を充足している。

(2) 組織的な取り組みによる財務施策の推進

- ・恒常的経費の精査、費用対効果の検証等による各種事業の見直しができている。
- ・「教育の質に係る客観的指標調査」の点数を維持・向上させている。
- ・「改革総合支援事業」タイプ3を獲得している。
- ・野球場の新設工事（Ⅱ期）の竣工、ならびに関連団体（強化指定クラブ）の入学者確保数：150名

(3) 教職員の役割に基づく能力向上とやりがいを持って働ける環境の実現

- ・教員の活躍を支えるキャリアアップ支援を充実させている。
- ・基幹教員制度を活用した教員人事計画を策定している。
- ・教職員に求められる役割に必要な能力に対する評価項目や評価基準等を用いた教員活動評価を実施している。

No.1 中学・高校の探究授業の拡充

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター〕

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

本校は2006年度から長年にわたって、キャリア教育を通してアクティブラーニングを展開してきている。高校の「ガリレオプラン探究」では、大学のように、九つのゼミに分かれて活動を行い、生徒の科学的探究心を育成している。また、学園設置大学の研究室や企業と連携するほか、海外の生徒との交流を行うことにより、将来の進学先へと繋がる教育活動を展開している。中学校でもスーパーJコースで探究アウトプットという課外活動授業を行っている。2025年度から海外修学旅行を実施しており、従来のSTEAM教育の実施順を組み替えつつ、プログラミングや科学実験などと併せて、更なる充実を目指し、高校のガリレオプラン探究に繋がる教育を実践する。

≪実施計画≫

(1) 中学校STEAM教育の実践

① 「常翔STEAM」の指導法の充実

- ・オリジナル教材を使用し、概要説明、演習、グループワーク、振り返りなど、アクティブラーニングを中心に、コアコンピテンシーに基づく資質能力を向上させる指導の実施
- ・外部指導者の招へい
- ・著名人による講演会実施

② 学園設置大学との連携

- ・各STEAMの内容により、中大接続の推進、学園設置大学訪問。高校進学前教育の一貫として、広島国際大学への訪問、見学

③ 成果発表（英語発表含む）

- ・各授業でチーム内発表、クラス発表をし、振り返る。各期間で身につけた資質能力を測るため、目的・目標に合わせた成果発表会を実施

④ 科学の甲子園ジュニア、英語スピーチコンテストへの参加者数の増加を目指す。

(2) 高校「ガリレオプラン探究（科学探究プラン）」を中心とした探究教育の実践

スーパーコース、薬学看護医療系コース対象

① 科学探究プログラムの指導法の研究

- ・教材の研究開発、本校教員と学園内外の大学教員、TAとの連携による実験技術指導法の研究
- ・ICT機器、デジタル教材等を活用した授業法の研究
- ・学園設置大学各研究室や企業との連携、高大接続の在り方の研究 ・他校への視察

② 各大学等との連携強化

- ・高大接続の推進
- ・学園設置大学の研究室訪問
- ・サイエンスフォーラムにおける著名人の講演会実施
- ・オンラインによる海外生徒との交流
- ・英語によるプレゼンテーションの取組み
- ・海外研修、海外姉妹校交流など、国際性を育成する取組み

③ 成果発表の拡充（英語発表含む）

- ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会への参加
- ・校内発表会の開催および外部審査員招へい
- ・Global Leaders Campをスーパーコース、グローバル探究コース、薬学看護医療系コース2年生に対する実施

(3) 第2特別教室と図書室のラーニングコモন্ズの活用

各種発表会の練習場所やその会場として、総合的な探究の時間も含めた有効活用

① 備品の整備（マイクや移動しやすい机、椅子など）

② 各教室のWiFi環境の充実

【具体的指標・効果（成果検証）】

期待される効果

- ・理系ブランド校としての認知により、優秀な生徒獲得につながる。（入学生徒の五ツ木偏差値の向上）
- ・「理系進学者、特に女子の減少」をくい止め、我が国の理系教育・科学立国に貢献する。（入学者における女子生徒の割合の向上）
- ・学園設置学校間の連携もより強化される。（連携講座の生徒満足度向上）
- ・大学との連携により、生徒が進路や将来について検討する機会となる。
- ・生徒の「課題設定能力・科学的探究心」の育成に繋がる。
- ・他校生、特に海外の生徒との交流を通じてコミュニケーション能力やグローバルマインドの育成に繋がる。（国公立大や難関私大の総合型選抜入試の合格者数増加）

No.2 グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上と高校「グローバル探究コース」における教材開発の継続

〔申請部署：高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター〕

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

コロナ禍後、国際交流事業が飛躍的に増加している。その中で、2025年度から新設したグローバル探究コースが本校の国際交流の中心的な役割を果たしている。ネイティブ英語教員や留学生が在籍していることが日常となることによって、生徒ならびに教員がグローバルな視点やダイバーシティを意識し、英語を通して日常的にコミュニケーションが取れるレベルを目指す。

また、「グローバル探究コース」では、CLIL(内容言語統合型学習)を実践するため、英語科が中心となり、他の教科と協同で授業教材を開発している。これは「英語を」学ぶのではなく、「英語で」学ぶことを意識したものである。英語4技能をバランスよく養成する姿勢を全コースに広げている。

《実施計画》

＜学校全体＞

・海外姉妹校(2025年度現在6校)との交流を通して生徒と教員のグローバルマインド、ダイバーシティ感覚を身につけさせる。

＜高校＞

- ・高校1・2年生の英語授業にネイティブ英語教員を3名配置し、英語4技能を指導する。
- ・高校1・2年生を対象にネイティブ英語教員や有名大学に在籍している外国人留学生が指導する英語プログラム(1年:Basic English Camp、2年:Global Leaders Camp)を開催し、英語力だけでなく、英語を通してロジカルシンキング、クリティカルシンキングを学ぶ。
- ・高校1・2年生の英語授業でオンライン英会話授業を行う。

＜中学＞

・中学3年生の英語授業や総合的な学習の時間を利用し、海外修学旅行を意識したネイティブ英語教員による英会話の授業を実施する。(イングリッシュディキャンプを含む)

＜教員＞

- ・英語教員に対し、英語スキル・指導技術の優れた講師による集中した校内研修を行う。
- ・CLILを中心とした教科横断型の指導法について校内研修を行う。

【具体的指標・効果(成果検証)】

＜高校＞

・卒業時に40%以上の生徒が英検2級以上を取得、73%以上が準2級以上を取得する。(卒業生数599人)  
(2024年度卒業生実績2級以上:249人、41.6%、うち4人は準1級、1人が1級)(準2級以上:406人、67.8%)

＜中学＞

・卒業時に53%以上の生徒が英検準2級以上を取得、86%以上が3級以上を取得する。(卒業生数142人)  
(2024年度卒業生実績準2級以上:74人、52.1%、うち1人は準1級、22人が2級)(3級以上:122人、85.9%)

No.1 教育環境整備事業

[申請部署:高校教頭、中学教頭、教務部、事務室]

**【必要性・目的、実施計画等】**

≪必要性・目的≫

本校の体育館は、体育の授業や部活動はもとより、式典や学校説明会等の各種行事で活用しているが、かなりの老朽化が進んでいる。この体育館は、新耐震基準(建築確認1981年6月1日以降の適用)にて竣工した建物であるが、経年により状況が変化している可能性があることから、2024年度に耐震診断および評定委員会における評定書取得を実施した。2025年度には、エアコンの設置、アリーナ等照明の更新(LED化)、バスケットゴール更新工事ならびに耐震補強工事の為の設計を実施。2026年度においては、利用者が更に安全で快適に使用できるよう耐震補強工事を実施する。

また本校では、「授業力」と「生徒たちが将来必要なICTスキル」を向上させることを狙いこ、2015年度からICT教育に必要な機器を導入・整備してきたが、一部教室の電子黒板設備が老朽化していることから、機器の更新を行う。

≪実施計画≫

- (1) 体育館の改修  
体育館耐震補強工事
- (2) ICT教育用機器の更新  
普通教室等27教室分の電子黒板設備の更新

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

- ・教育環境の改善による、生徒や保護者の満足度向上。
- ・体育館は、オープンスクールや学校説明会でも使用しており、改修工事を行うことで入試広報面での向上にもつなげたい。
- ・電子黒板システムの更新により、生徒の教育環境が維持・向上できる。また、能動授業、協働学習、反転授業、適応学習、探究型学習などといった学習体系に向けて活用することで、教育効果の向上が期待できる。

No.2 生徒の学びの個別最適化による能力向上と教員のリスキリング・リカレント教育  
〔申請部署:高校教頭、中学教頭、進路指導部、教育探求部〕

**【必要性・目的、実施計画等】**

《必要性・目的》

2026年度より、Well-beingの向上と教員の働き方改革の一環として、生徒・保護者・教員がより有意義な土曜日の時間確保や活用を目的に、土曜日授業を廃止する。

生徒には、自学自習、資格・検定取得、部活動、課外活動など主体的に取り組ませたいと考えている。また、教員に対しては、「探究」と「創造」を育む新しい教育を進めるうえで、個々の教育力や教育研究の向上を図る。

《実施計画》

(1) 生徒:土曜日特別プログラムの実践

- ①K<sup>1</sup>タイム(自習室)の運営:自主学習の習慣化、進路意識の向上を目的とした学習空間の提供
- ②資格・検定取得講座:英検・IELTS・数検など取得支援講座の開講、進路に活かす力を育成
- ③DX人材育成プログラム講座:プログラミング、データサイエンス、生成AI活用などの基礎スキルを習得

(2) 教員・生徒:探究教育の深化、DX人材育成の実践

- ①探究・デジタル教材の研究開発、DX人材育成の推進:探究活動に適した教材開発、ICT・デジタル教材の活用研究、生成AIの活用
- ②大学・その他教育機関との連携強化:高大連携による探究テーマの深化、外部講師の活用
- ③校内研修、他校視察、海外研修:教員の経験資質と指導力の向上

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

- (1) 大学進学実績、生徒の学習意欲・進路意識の向上
- (2) 教員の指導力・教育力の向上による授業の質的改善
- (3) 学校全体の教育力の向上  
生徒・教員双方の成長による学校ブランド力強化、地域・大学・企業連携による教育の社会的価値向上